

幸徳幸衛絵画展示会

展示会 高知県立美術館コレクション展「高知の洋画」の中で、幸徳幸衛の絵画8点（「目のない自画像」「パリの風景」など）と遺品スーツケースが展示されます。

期間 2017年10月18日 ～ 2018年1月14日
9時～17時 年中無休

会場 高知県立美術館（高知市高須353-2 Tel 088-866-8000）
詳しくは同館ホームページ→展示会→コレクション展を。

幸徳幸衛は秋水の甥（兄亀治の長男）。明治23年生（1890年）
明治38年11月（1905年）、15歳の時、秋水とともにアメリカ（サンフランシスコ）に渡る。秋水は8カ月後帰国するが、幸衛は絵の勉強がしたいと残る。31歳で日系2世松子と結婚、2人の子ども（明子、光）生まれる。

37歳の時、絵の修行のため単身パリに渡るが、2年後の昭和4年（1929年）、家族をアメリカに残したまま、シベリヤ経由日本に帰る。中村で24年ぶりに母伊野に会う。

中村、高知に滞在し、地元の風景等を書き続け、展示会もおこなったりしたが、昭和8年（1933年）大阪にて病没（43歳）。大逆事件後は、秋水の甥として迫害を受け続けた。

幸衛の遺品は母の木村家を通して縁者にあたる中村の田中和夫氏（幸徳秋水を顕彰する会会員、歯科医）が所蔵していたが、このほど高知県立美術館に寄贈。遺品にはたくさんの絵やデッサン、アルバム等があり、今回の展示はその一部。

幸衛はアメリカに残してきた家族にはその後会えないままであった。2人の子どもはすでに亡いが、孫たちがロサンゼルスに健在であることがこのほどわかった。

なお、幸衛の生涯については、いとこの木村林吉氏著『目のない自画像』（2001年、美術の図書三好企画刊行）に詳しい。